

出版決定！
ご協賛のお願い



50年目の発言

～赤軍だった私たちから (仮)

激動の1969年から半世紀を経て、あの時代を闘った20数名が力を合わせ、最後の本を出版します。獄中から、朝鮮から、そして国内で今もこの国の行方を考え続けるそれぞれの立場から、全員が率直な発言をしています。本書は「自分史」や「回顧」文集ではなく、体制や情報にのまれず一人ひとりが「生きる」ことへの提言です。

『50年目の発言～赤軍だった私たちから』（書名・仮題） 三浦俊一編・著

講談社エディトリアル刊 2019年11月末発売 四六判 400頁 2000部発行 定価1,800円（予定）

全国の書店、Amazon、Yahoo!ブックなどの通販でも販売

出版発起人／三浦俊一（代表） 榎原均、新開純也、高原浩之、物江克男、八木健彦 編集／小川智子

■お問い合わせ 090-9236-9148（三浦）

■ご協賛金の送り先 京都中央信用金庫 上桂（カミカツラ）支店（店番号118）
普通口座 0194210 物江克男（ものえ・かつお）

《協賛金申込書（FAX用）》 FAX番号 03-3382-3207 Eメール tomoco@yd5.so-net.ne.jp

2019年 月 日 協賛金 円

お名前

ご住所

※行き違いがありませんように、入金頂けましたら必ずFAXかメールでご住所・お名前・協賛金額をお知らせ下さい。

※本書の巻末にお名前を記載させてよろしければチェックをお願いします。 お名前を記載 する しない

記載するお名前（仮名でも結構です）

「明日が明るく素晴らしい日であると、安らかな眠りの深海に沈みえない時代があった。

未来が輝かしい時代だなどと、信じる者もいなかった。

不透明な時代を生きながら、この時は“永遠の今”なのだ、と。それゆえ自らに課した問いに苦悩し、

決断の責任の重さにたじろぎ、恐れ、それでも街頭へ立つ以外に選択肢はなかった。

そして今、世界を疑問の眼で射抜くことを忘れた時代は終わろうとしている。あの大河のように

時代を押し流した魂は、かすかだが確かな流れとなって、社会の隅々に流れ込んでおり、

それはいつかまた、大河の激流となることを予感させている……Eternal revolution！」

(発起人代表・三浦俊一)

■執筆者

赤木志郎 (大阪市立大)、魚本公博 (関西大)、小西隆裕 (東大)、若林盛亮 (同志社大)

以上よど号メンバー、以下五十音順

足立鐘平 (桃山学院大)、足立正生 (日芸・映画監督)、上原敦男 (明大)、榎原均 (京大)、
大越輝雄 (立命館大)、重信房子 (明大・日本赤軍)、佐藤秋雄 (専修大)、新開純也 (京大)、
高原浩之 (京大)、田中正治 (同志社大)、中島伸介 (同志社大)、成島忠夫 (静岡大)、
西浦隆男 (大阪市大)、三浦俊一 (関東学院大)、物江克男 (滋賀大)、八木健彦 (京大)

※執筆者全員が1966年以降の分派闘争、テロ、リンチ事件に関与しており、連合赤軍へ
行った者はいませんが、連赤事件は自分たちの政治思想の延長上にあったととらえています。

■寄稿

太田昌国 (評論家 著書『脱・国家 状況論』『国家と戦争 異論』他)

酒井隆史 (社会学者・大阪市立大学教授 著書『暴力の哲学』他)

■編集

小川智子 (脚本家・作家)

本書出版には、故人を含めて20数名の仲間たちが現在の思いを書き下ろしています。この半世紀中で、おそらく最も誠実で最も史実をあらわした書物になるはずです。かつての闘いの日々を記憶に留め、歴史に残し、後に続く人たちの糧にしたいと考えています。どうかご協賛をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。